



会員施設に
おじゃま
します!

家庭に近い環境で 普通の生活の継続を

3人と職員1人で昼食の
材料の買い出しに。「晴れ
てよかったわね」と外に出
る楽しさを味わいます



- 1 居室では自宅の使い慣れた家具に囲まれて心地よく暮らします
- 2 鉄骨造でも木のぬくもりを大切に、周囲の環境に溶け込んだ外観
- 3 職員が見守るなか、食事の支度もなごやかにすすみます
- 4 今日の昼食は鉄板焼きの焼きそば。「私にまかせて」と率先して焼き始めます

通の家での暮らしが実現されています。また、すべて畳敷きの個室は、布団を敷く人、ベッドの人などさまざまで、個人の自由が尊重されていることがわかります。

「ここでは1日のリズム、1週間・1カ月のリズム、そして季節の変化を感じられるような生活ができるよう心がけています。変わらぬ日常のなかに非日常の時間をもつことも重要ですから、一般家庭ならどこでも行うような日帰りの小旅行やクリスマスなどのイベントも大事にしています」と管理者の奥村友保さん。

昨年末にはご近所や通りすがりの人も参加しての餅つき大会を開催したり、晴れた日には自慢のウッドデッキで誕生会を行うなど、非日常の思い出づくりも日々の生活に取り入れています。

一人ひとりの夢がかなうプランを 実現するための支援を続ける

「さくらの家 東矢口」では、ケアプランに入居者一人ひとりの「その人らしさ」を考え、夢や望みを

かなえられるようなテーマを盛り込んでいます。

「ある女性は『娘が働いているデパートに歩きたい』と希望し、入居時は車いす使用でしたが、日々の生活に歩く訓練を取り入れ、現在は両手介助で歩行できるまでになりました。しかし、歩けるようになることが目標ではなく、デパートに行くという夢がかなうことが大切だと思っています」とホーム長の原田幸延さん。地域での支援体制を整えることで、自宅復帰を果たした男性もいます。

また、ここでの暮らしは「自己決定」を尊重しています。たとえば食事は、食材の買い置きはせず、皆でメニューを決め、1日2回交代で買い出しに行きます。「毎日外出すること、食材を見て季節を感じたり自分で選んだりすることが、状態の維持につながると思っています」(奥村さん)。

炊事、洗濯、掃除、買い物など、一般的な家事で自分のできることは可能な限り自分でやっていただき、不得手なことでも役割がもてれば参加するのがここでの生活ルール。そしてこの先1年でも2年でも、今と同じことができるよう、職員が気持ちを一つにして日々、支援を行っています。

今月の施設

社会福祉法人櫻灯会 グループホーム 「さくらの家 東矢口」

(東京都大田区)

DATA

開 所 ● 2007年4月
定 員 ● 18人(1ユニット9人×2ユニット)
構 造 ● 鉄骨造2階建
施設設備 ● リビング、キッチン、トイレ、浴室、洗面所、小あがり(和室)、1階に認知症対応型サービス「ほのか」併設(定員12人)
利用料金 ● 月額14~15万円程度(介護保険自己負担+家賃+食料費+日用品費+光熱水費)
居室設備 ● 個室全室和室・冷暖房完備・押入れ

普通の生活・普通の家を意識し コンパクトな生活動線を実現

東京23区で最大面積をもつ大田区の私鉄沿線に、昨年4月、「さくらの家 東矢口」がオープンしました。お向かいには理髪店、徒歩数分のところには歯科医院や昔ながらのスーパー、駅前商店街などが軒を連ね、普通の生活を継続するのにふさわしい、便利で暮らしやすい環境が整っています。

在宅からの継続を考えて造られた建物は、玄関や浴室、キッチンの造りも一般家庭と変わりません。あえて造りをコンパクトにし、部屋からリビングまでの距離など生活動線を短くすることで「普